



検査かわら版

※今号よりISO15189のロゴマークを加えました

特集 風疹について

発行:佐賀大学医学部
 附属病院 検査部
 責任者:末岡榮三朗
 佐賀市鍋島5-1-1

1. 風疹って何?

風疹ウイルスは、正式名ルベラウイルス (rubella virus) と言い、ヒトのみに飛沫および接触感染でうつる病気です。風疹の潜伏期間 (感染してから症状が出るまで) は2~3週間です。

風疹の症状として、発熱、発疹、リンパ節腫脹があります。しかし、これらの症状は他の疾患でも多く見られます。また、症状が出ない不顕性感染から重篤な合併症まで、幅広い病態を示します。したがって、臨床症状だけで風疹と診断することは困難な疾患です。



2. 風疹の何が問題なの?

風疹は、一般的に軽症で治癒することが多く、問題になることは少ない病気です。しかし、稀に急性脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症が数千人に1人の割合で起こることがあります。

近年、最も問題になっていることは、妊婦さんの感染です。妊娠20週までの妊婦さんにとって、風疹ウイルスの感染は胎児に影響を及ぼすことがあります。先天性風疹症候群 (congenital rubella syndrome : CRS) といい、先天異常を含む様々な症状を呈します。感染時期により重症度や症状の種類は様々です。先天性心疾患、難聴、白内障、色素性網膜症、精神や身体発達障害などがあります。



3. ワクチンの勧め！

風疹は、そのものを治療するお薬はなく、症状などを抑える対処療法だけです。そのため、風疹に罹らないことが大切です。風疹にはワクチンがあります。予防接種にて風疹に対する抗体を獲得することができます。この抗体によって風疹を予防できるので、妊娠前に予防接種を受けることが重要です。

もう一つ大事なことは、周りの方が妊婦さんに風疹を感染させないことです。そのためには、周りの方も風疹の予防接種を受けることがとても重要です。特に30～50代の男性はご注意ください。厚生労働省の平成28年度の感染症流行予測調査では、30代後半から50代の男性の5人に1人は風疹の抗体を持っていないことがわかっています。生まれてくるお子様のためにも抗体を持っていない方は、予防接種をお勧めします。

佐賀県では風疹の抗体検査及び予防接種の費用が全額助成される制度があります。佐賀県に住所を有する「妊娠を希望される女性」と「風疹抗体価が低い妊婦の同居者」が対象になります。助成期間は2019年4月1日から2020年3月31日です。

助成を受ける方法や対象になるかどうかなど、詳細は県内の各市町の窓口にお問い合わせ下さい。



風疹の抗体がない人は是非風疹の
ワクチンをうけましょう！



検査の豆知識 ～細菌とウイルス～

感染症には、細菌やカビの仲間の真菌、ウイルスなど様々な病原体がいます。この中で最も身近な病原体として細菌とウイルスがあります。細菌とウイルスの違いは

1. 大きさ

大きさは、圧倒的に細菌の方が大きいのです。ウイルスの仲間には細菌に感染するウイルス（バクテリオファージと呼ばれています）がいます。



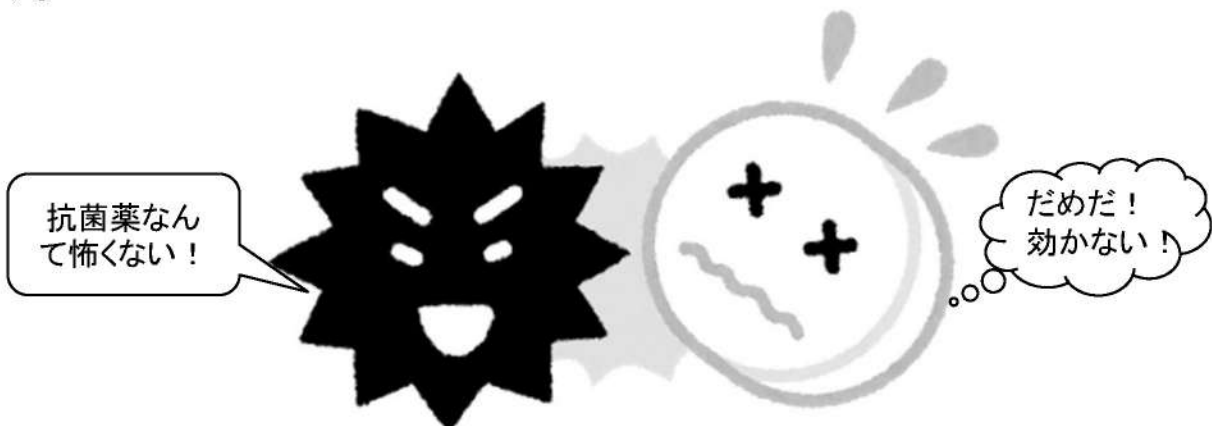
2. 増える仕組み

細菌はある程度の栄養（糖やアミノ酸など）があれば色々な環境で自分で増えることができますが、ウイルスは生きた細胞の中でしか増えることはできません。

3. 治療

細菌は、抗菌薬（抗生物質）により治療することができますが、ウイルスには抗菌薬は効きません。

これ以外にも色々違いがあるのですが、この中で重要なことはウイルスには抗菌薬は効かないということです。例えばウイルスが原因で起こる風邪には抗菌薬は全く効きません。抗菌薬が要らないにもかかわらず使用すると、抗菌薬に対する耐性菌が出現し、本当に抗菌薬が必要な時に薬が効かないということになります。



病原体を運ぶ生き物



ヒトに病原体を感染する動物として、ノミ、ダニや蚊が知られています。世界では蚊に刺されて、感染することにより、多くの人々が亡くなっています。蚊が媒介する病原体はマラリア原虫や日本脳炎ウイルス、デング熱ウイルスなどがあり、日本でもデング熱が多く発生し話題になったこともありま



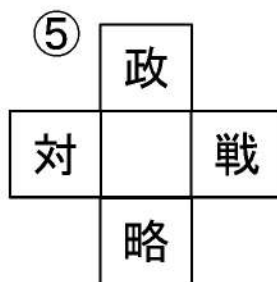
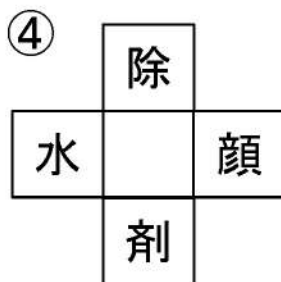
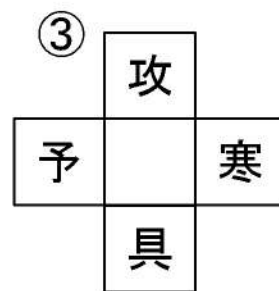
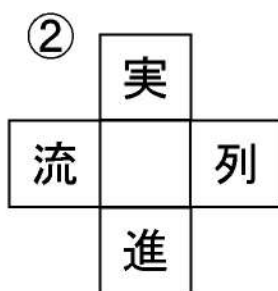
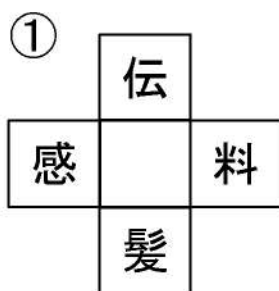
した。地球の温暖化によって現在日本では見られない亜熱帯の病原体が蚊などの媒介動物の北上によって発生するかもしれません。



パズルコーナー

4つの二字熟語を完成させましょう！

ヒント：今回は感染症のお話でした。



編集後記

執筆 草場耕二 監修 大枝 敏

今月は、感染症を中心に作成しました。一時期、多種類の抗菌薬の開発や天然痘の撲滅によって「感染症」は怖くない病気と勘違いされた時期もありましたが、エイズやエボラなどの新しい感染症や近年再び増加傾向にある結核や百日咳、耐性菌など多くの病原体が問題になっています。その中でも最近話題になっている「風疹」を今回取り上げてみました。昔は「三日はしか」などと言われて軽い病気と考えられていましたが、胎児に大きな影響を起こす可能性があることより注目されています。皆様「うつらない」「うつさせない」ようにご注意ください。